

○ 内観パースの描き方

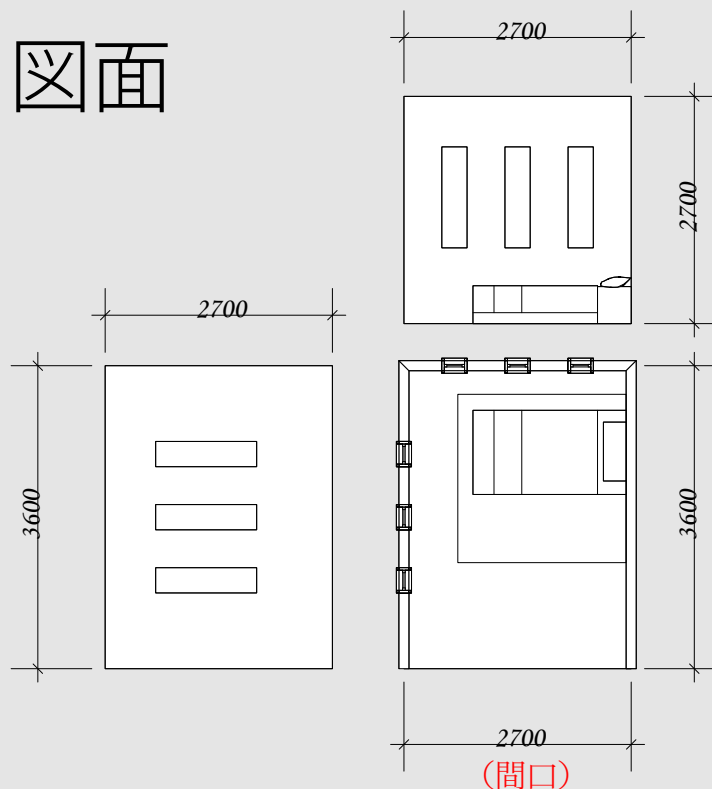
準備するもの

・平面図 ・展開図 ・A 3 サイズ用紙 ・定規 ・筆記具

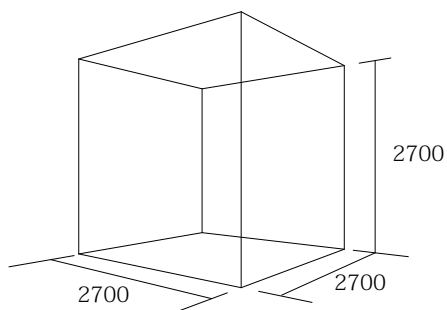
K式簡易パース～1点透視図法～

右の練習用図面を利用して、
内観パースを描きます。

図面



間口の幅の立方体の作成

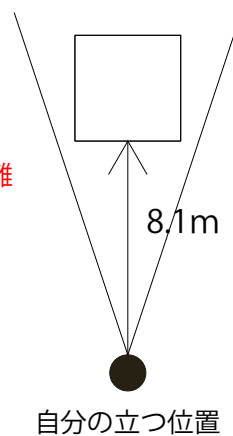


まず、立方体を描きます。

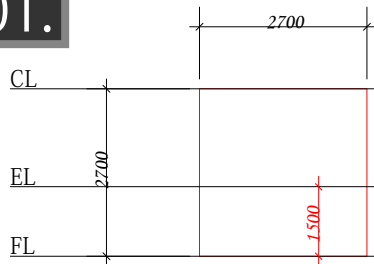
建物(立方体)が、視界に入りきる位置を計算します。
間口の幅 × 3 = 室内がフレームに収まる距離

なので、 $2700 \times 3 = 8100$

2700の立方体は8.1メートルの距離から見た場合、
フレーム内におさまります。



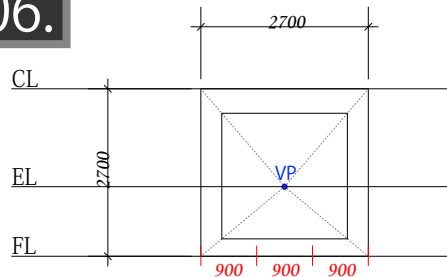
01.



A3の紙に1/100の縮尺で、FL(床面の位置=立方体の底にあたる)とCL(天井の高さ=立方体の一番上の線)を引く。EL1500(視点の高さ)も引く。

※ ELは1,300mm~1,500mmで設定することが多い。
※ 縮尺は変更しても構いません。

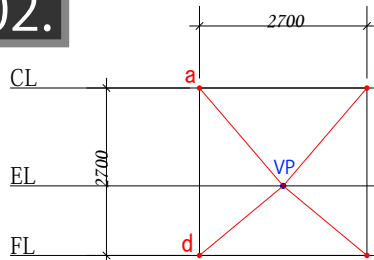
06.



室内の幅と高さが、2700、奥行が3600ですので、奥行900を追加します。

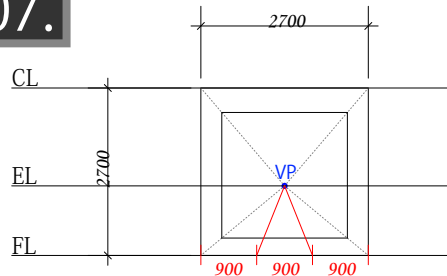
まず、間口を900で3分割します。

02.



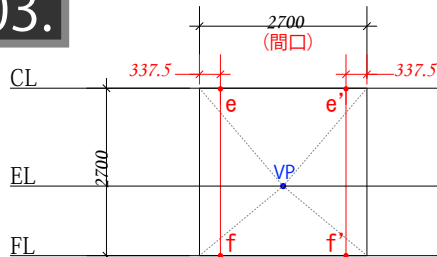
一点透视图なので、ELの中心にVPをとり、VPをそれぞれ点a・b・c・dと結びます。

07.



VPと3分割した点とを結びます。

03.



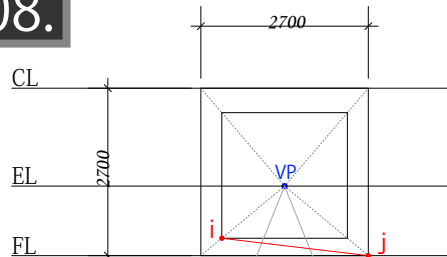
ここで、立方体の奥の壁の位置を出します。

K式値1/8が壁の奥行の角ラインとなります。

奥の角の位置は、 $2700 \div 8$ なので、337.5の位置に、線分efと線分e'f'を引きます。このラインが奥の壁の角となります。

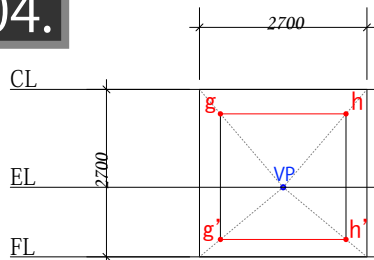
側面壁の奥行 間口 $\div 8 = 2700 \div 8 = 337.5$

08.



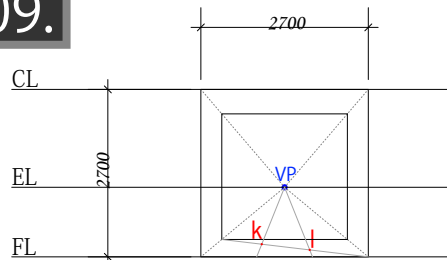
次に、床面に線分ijの斜線を引きます。

04.



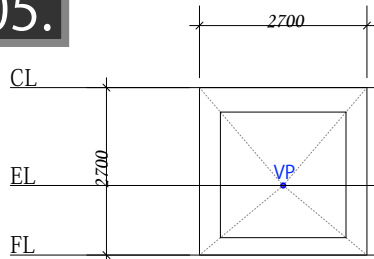
線分ghと線分g'h'の水平線を2本引きます。

09.



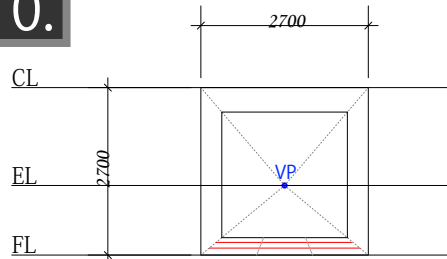
線分ijと交差した点k、点lを基準に、水平線を2本引きます。

05.



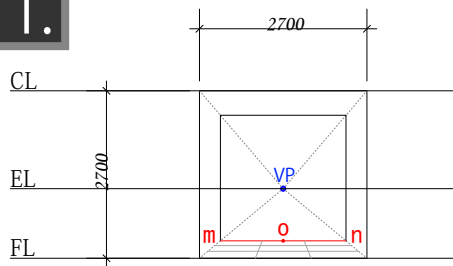
これで、2700の立方体の一点透视图が出来ました。

10.



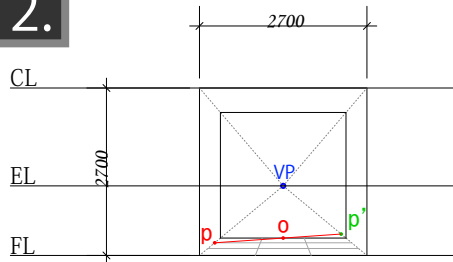
これで、床面に900のグリッドが描けました。

11.



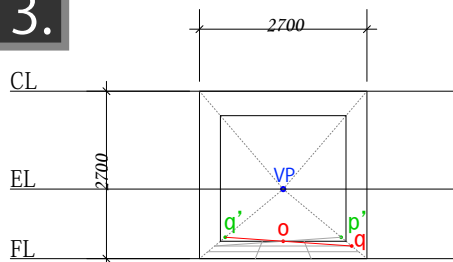
線分mnの中心、点oをだします。

12.



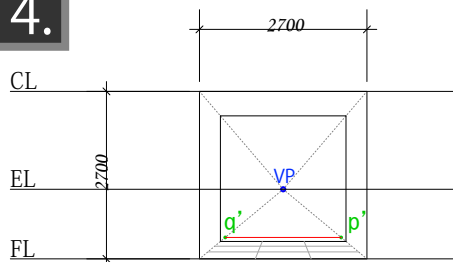
点oを通るように、線分poを延長させて、点p'を出します。

13.



点oを通るように、線分qoを延長させて、点q'を出します。

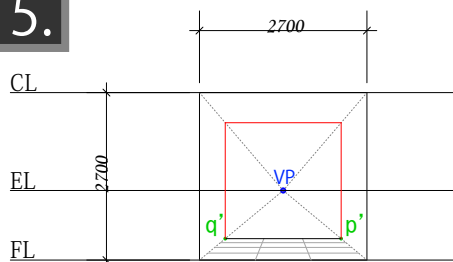
14.



点q'と点p'を、水平線で結び、線分q'p'引きます。

この線分q'p'が奥行3600のラインとなります。

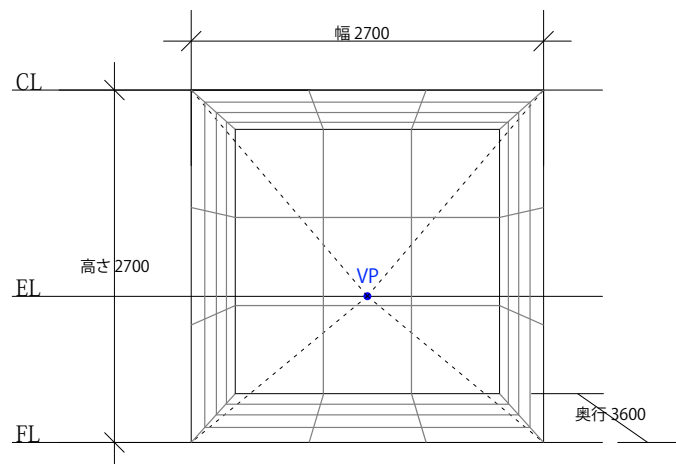
15.



線分q'p'を基準に左右、上ラインを引けば、室内の壁が出来ます。

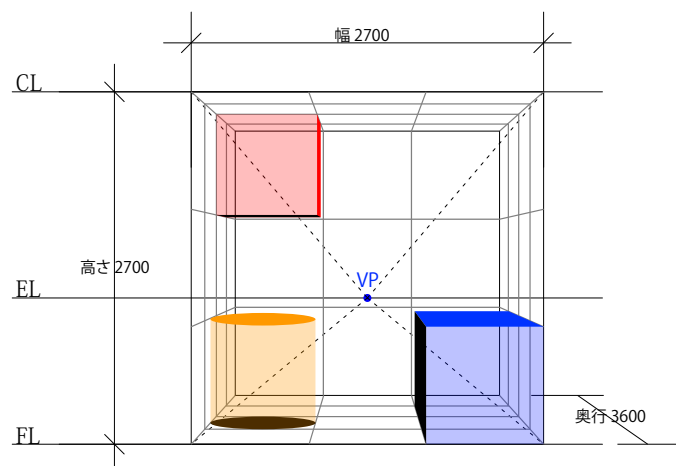
※手順12・13を繰り返すことで、900ごとに奥行を追加できます。

16.



900間隔でグリッドを引いたら、これを目安に建具・家具を描きこみます。

17.



以上で、1点透視図法の基本編は、終わりです。